

峰ノ茶屋から 三斗小屋温泉



三斗小屋温泉煙草屋旅館の露天風呂

白い噴煙を上げる茶臼岳の山懐に「ランプの宿」として知られる三斗小屋温泉がある。かつては湯治客で栄えたが、現在は那須登山の拠点として多くのハイカーに親しまれている。素晴らしい自然に囲まれた秘湯を訪ねる。

二七穂高の異名を持つ 朝日岳を見ながら

JR東北本線黒磯駅から東野バスのロープウェイ山麓駅に乗り、アカマツ林を抜け、広々とした台地の那須高原を西に向かうと、約1時間で郭公平の山麓駅(一四二〇)に着く。車利用の場合はこの駐車場が、この上の峠ノ茶屋の駐車場を使うと便利である。山麓駅の広場からいったん車道へ出てすぐ左の階段を上がり、郭公沢左岸の登山道をゆるやかに登る。峠ノ茶屋と呼ばれる売店を過ぎると、那須岳登山指導センター(硫黄鉱山事務所跡)があり、登山計画書を入れるポストが備えられている。

交通 JR東北本線黒磯駅から東野バス那須岳ロープウェイ山麓駅行 終点下車(65分)

問合せ先 JR黒磯駅 0287(62)0047 / 東野バス黒磯出張所 0287(62)0858

歩行時間 2時間5分

コースタイム 那須岳ロープウェイ山麓駅(60分 55分) 峠ノ茶屋(10分 15分) 県営避難小屋(55分 60分) 三斗小屋温泉

地形図 那須岳

三斗小屋温泉 単純泉 / 53度 / 胃腸病・痔疾・慢性湿疹などに適応

宿泊施設 大黒屋旅館 0287(63)2988 / 090(1045)4933(4月~11月) 煙草屋旅館 0287(69)0882

照会 那須観光協会 0287(76)2619 / 黒磯観光協会



那須湯本付近から朝日岳を望む

左手の小さな木の鳥居をくぐり、木の橋を渡る。狛犬の間を抜けて低木帯の中をやや急登する。低木帯を抜けると登りはゆるやかになり、石がゴロゴロした広い道になる。眼前には二セ穂高とも呼ばれる、アルペンの風貌の朝日岳が屹立し、少したわんで鬼面山、そこからなだらかな稜線が下っている。

烈風の通り道

峰ノ茶屋

対岸の恵比寿・大黒の奇岩や剣力峰を目にしなが、前



峰ノ茶屋避難小屋

方の鞍部に小さく見えてきた峰ノ茶屋を目指し、茶臼岳の北面を巻くようにゆるやかに登って行く。明礬沢の源頭部を右折すると峰ノ茶屋へ着く。以前は周囲に雨風除けの石を積み、屋根をかけただけ的小屋だったが、一九九七年11月に、強風にも耐え得る避難小屋が完成した。ログハウス平屋建てで、屋根はステンレスチーンで固定されている。

ここは茶臼岳・牛力首方面と、朝日岳・三本槍岳方面、三斗小屋方面への分岐点であることからいつも登山者で賑

わっている。木製のテーブルとベンチが置かれているので休憩には最適なところだ。

また、ここは冬から春にかけて会津方面から猛烈な強風が吹き抜けることでも有名で、その強風を避けるための避難所としても利用されている。

鼻をつく硫黄臭 白煙を上げる茶臼岳

ここから一〇〇ほど南へゆるやかに登るとベンチも備えられた見晴らし台があり、茶臼岳から盛んに噴き上げるいく筋もの白煙や、西に連なる山並みが一望できる。

また、ここは牛力首・南月山方面と茶臼岳山頂への分岐点になっている。時間に余裕があれば茶臼岳を往復するか(往復約1時間30分)、牛力首方面に向かって茶臼岳西面の噴気孔群を見てくるとよい。荒涼とした別世界を思わせる景観や激しく噴き出す噴煙は、「火の山」茶臼岳を存分に堪能させてくれる。

0287(62)7155

朝日岳南斜面 以前は朝日岳の南斜面にも登山道があったが、山肌がもろくて風化変質が激しく、崩落の危険から現在は登山禁止になっている

茶臼岳では大正年間から硫黄製錬が行われ、一九六〇年ころまで操業されていた。噴火口からトロッコで鉱石を峰ノ茶屋上方に集め、これを鉄索で製錬所(有料道路終点駐車場)まで下ろしていた。こうしたことから年配の人はこを「鉱山事務所」とか「硫黄ヤマ」と呼んでいる

アドバイス 峰ノ茶屋の冬の強風は有名だが、春や秋にも、強風による遭難事故が毎年のようにくり返されている。特に5月と10月には、降雪をみることも不思議ではない。三斗小屋温泉からの下山時に吹雪となった場合、旅館の人の意見をよく聞き、慎重な行動をとってほしい

三斗小屋温泉へは峰ノ茶屋から道標に従いガレ場をトラバースしながら急降下する。近年、強風対策などのためクサリがつけられた。この一帯は風化が激しく、崩れ落ちてきた岩石や砂が堆積した急傾斜面に登山道があるので、足元の浮き石や崩れ、頭上からの落石に注意が必要である。

まもなく右前方に隠居倉、下方に避難小屋が見えてくる。このあたりからの壮大な紅葉は那須でも屈指の美しさといわれている。

広葉樹の急坂を下りきると、県営避難小屋へ着く。峰ノ茶屋が強風で越せない時などに利用されている無人の小屋である。

ここから自然林の中のかなだらかな道になる。ダケカンバやハウチワカエデなどの明るい林で、ときどき振り返れば梢の間から噴煙を上げる茶臼岳が望まれる。

右へカーブしながら下り、「無間谷」という標識のある



延命水付近からの茶臼岳

御沢の木橋を渡って右岸に出る。この水は多量の硫黄分を含んでいるので、飲料には適さず、魚も生息していない。ダケカンバの林を抜けて少し行くと延命水と呼ばれる水場がある。夏でも冷たくおいしい水が右手の斜面から湧き出しているの、一本たてるよいだらう。

ランプの宿で知られる
秘境・三斗小屋温泉へ

なおも平坦なササ道を西へ進むと左に板室・沼原への道を分け、やがて樹間越しに三倉

山から大倉山への美しい稜線が姿を現す。大きく右へカーブしながらゆるやかに下ると三斗小屋温泉の屋根が見えてくる。右に煙草屋旅館、そのすぐ先が大黒屋旅館である。

三斗小屋温泉は隠居倉の西斜面、標高一四六〇の高所に位置する温泉である。奥鬼怒四湯に電気と電話が通じた現在、県内では自家発電に頼っている秘湯中の秘湯である。

温泉の発見は一一四二年、中岩代の生島某が白鹿に導かれてたどり着いたとの伝承があるが、定かではない。

大黒屋は日本勤労者山岳連盟指定の旅館であり、登山者の利用が多い。ヒノキの湯舟の大風呂と岩風呂があり、屋外には温泉プールがある。

煙草屋の名物は、大自然の中の露天風呂で、夕日の素晴らしさや、満天の星を眺めながらの温泉が楽しめる。また条件が良ければ、会津駒力岳も望むことができる。

「阿見正男」

一本たてる 登山者・山屋たち
の間で使われる言葉で休憩すること
をいう。重い荷を背負った歩荷の人たちが、太い杖を背負子の底にあてて立つたまま休んだことに由来するといわれる。
このような隠語も多いが、「キジ打ちに行く」とは男性が、「お花つみに行く」とは女性がトイレに行くことをいう

帰路交通 ロープウェイ山麓
駅から東野バスJR黒磯駅行、
終点下車(65分)/JR黒磯駅
0287(62)0047/東野
バス黒磯出張所 0287(62)
0858

